



業況 DI は 0.3 ポイントの上昇、一般機械が改善

～令和6年7－9月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和6年7－9月期の調査結果をご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況 DI は上昇 ～

総合の業況 DI は、前期比 0.3 ポイント上昇の▲25.7となりました。

また、今後についても3ヵ月後が現在比 1.1 ポイント上昇の▲24.6、半年後が同 0.6 ポイント上昇の▲25.1 ポイントといずれも上昇を見込んでいます。

2. 業種別特徴 ～ 業況 DI、一般機械が改善 ～

製造業の業況 DI は前期比 0.2 ポイント低下の▲30.3 となりました。中分類で見ると、一般機械（同 15.6 ポイント上昇の▲21.6）は大幅に上昇した一方で、電気機械（同 4.0 ポイント低下の▲26.2）と輸送用機械（同 7.0 ポイント低下の▲33.3）は低下しました。

建設業の業況 DI は同 0.1 ポイント低下の▲9.1 となりました。

商業・サービス業の業況 DI は同 1.1 ポイント上昇の▲26.4 となりました。内訳を見ると、小売業（同 6.1 ポイント上昇の▲36.4）とサービス業（同 6.6 ポイント上昇の▲11.9）は上昇した一方、卸売業（同 8.1 ポイント低下の▲31.3）と飲食店（同 10.3 ポイント低下の▲13.4）は低下しました。

また、3ヵ月後は製造業が同 8.3 ポイント上昇の▲22.0、建設業が同 0.6 ポイント上昇の▲8.5、商業・サービス業が同 3.6 ポイント低下の▲30.0、半年後は製造業が同 10.5 ポイント上昇の▲19.8、建設業が同 2.0 ポイント低下の▲11.1、商業・サービス業が同 5.2 ポイント低下の▲31.6 となるなど、今後の見込みは業種によってばらつきのある結果となりました。

3. 規模別*特徴 ～ 各 DI、中規模・小規模企業でばらつき ～

中規模企業の業況 DI は前期比 1.5 ポイント低下の▲19.3、小規模企業の業況 DI は同 1.8 ポイント上昇の▲33.2 となりました。売上 DI は中規模企業が同 2.1 ポイント上昇の▲5.1、小規模企業が同 2.9 ポイント低下の▲27.4、採算 DI は中規模企業が同 5.7 ポイント上昇の▲18.6、小規模企業が同 4.6 ポイント上昇の▲31.3 となりました。中規模・小規模企業の各 DI は、ばらつきのある結果となりました。

4. 地区別特徴 ～ 業況 DI、4地区が上昇 ～

地区別の業況 DI では前期より上昇したのは4地区（横浜、平塚、藤沢、厚木）で、低下したのは4地区（川崎、横須賀、相模原、足柄上・西湘）でした。特に変化の大きかったのは平塚（前期比 11.0 ポイント上昇の▲29.0）、足柄上・西湘（同 11.9 ポイント低下の▲25.7）でした。

3ヵ月後は、現在比で5地区（横浜、横須賀、平塚、藤沢、厚木）で低下、その他の3地区で上昇を見込んでいます。

半年後では現在比で5地区で上昇（川崎、平塚、藤沢、相模原、足柄上・西湘）、その他の3地区で低下を見込んでいます。

5. その他（経営状況、主なコメント）

～ 経営状況では「設備稼働」、「採算」が上昇 ～

経営状況では、「設備稼働」が、総合で前期比 8.2 ポイント上昇の▲9.7 となり、製造業では同 8.5 ポイント上昇の▲11.8 となったほか、建設業は同 7.6 ポイント上昇の▲3.4 となりました。

また、「採算」でも、総合で同 5.4 ポイント上昇の▲24.4 となり、業種別では、製造業が同 12.6 ポイント上昇の▲20.0、建設業が同 4.7 ポイント上昇の▲20.5、商業・サービス業が同 0.9 ポイント上昇の▲28.2 となるなど、全ての業種で上昇しました。

コメントでは、「半導体分野で生成 AI に関連する装置部品の受注、販売が好調。上期に続き下期分の引合いも出ているが、見込み通りに進むかは不明。生成 AI 以外の関連部品の動きはまだ鈍い。（メモリなど。）」などの声が上がっていました。

※設備稼働については製造業、建設業のみ回答

◇外国人材の雇用についての特別調査

1. 全体的特徴 ～ 「雇用している」との回答は約 18%。コミュニケーションが課題 ～

外国人材の雇用に関して調査したところ、現在の状況（表1）では、「雇用している」と回答したのは 18.4%、「雇用を予定している」が 1.5%、「調査、検討している」が 6.7%、「雇用の予定はない」が 73.4%となりました。

雇用している、または雇用を予定している場合の外国人材の出身国（複数回答）（表2）については、最も多かった回答は、「ベトナム」で 40.8%、次いで「その他」の 38.0%で、これに「中国」の 25.1%、「インドネシア」の 14.0%、「ネパール」の 11.2%が続きました。「その他」では、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、タイなどの回答がありました。

また、外国人材雇用に際した課題（複数回答）（表3）については、最も多かったのは「従業員とのコミュニケーション」の 60.5%で、次いで「自社への定着」の 42.0%、「受け入れ手続き」の 40.8%、「受け入れ費用」の 32.7%、「その他」の 17.5%となりました。「その他」では、文化面の違いなどの回答がありました。

表1 外国人材雇用の状況（全体）

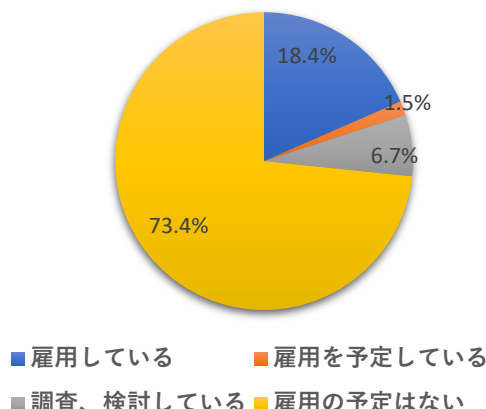


表2 外国人材の出身国（全体）※複数回答

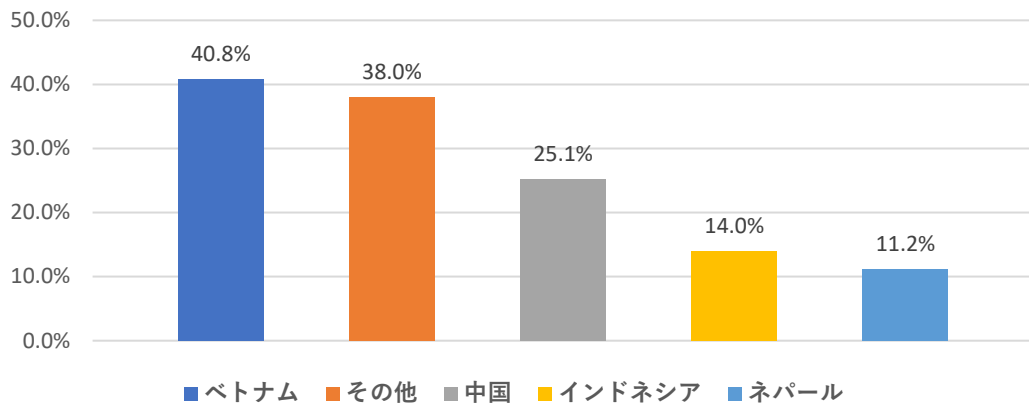
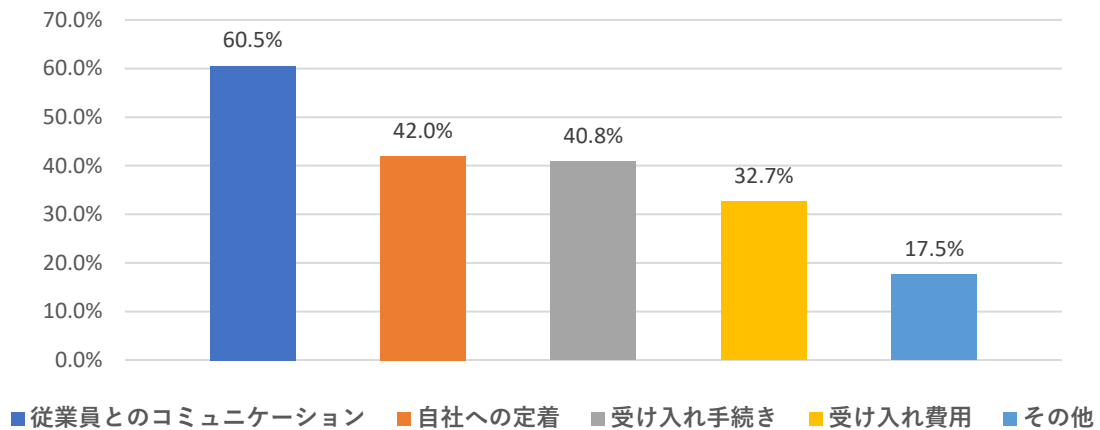


表3 外国人材雇用の課題（全体）※複数回答



2. 業種別特徴 ～雇用している割合は製造業が最も高い～

業種別では、現在の状況（表4）について「雇用している」と回答した割合が最も多かったのは製造業で30.2%、次いで建設業の21.4%、商業・サービス業の9.1%でした。

雇用されている、または雇用を予定している場合の外国人材の出身国（複数回答）（表5）では、「その他」の回答を除き、全ての業種において「ベトナム」が最も多く、次いで多かったのは、製造業、商業・サービス業では「中国」、建設業では「インドネシア」となりました。

また、外国人材の雇用に際した課題（複数回答）（表6）では、全ての業種で「従業員とのコミュニケーション」との回答が最も多く、次いで多かったのは、製造業では「自社への定着」、建設業、商業・サービス業では「受け入れ手続き」となりました。

表4 外国人材雇用の状況（業種別）

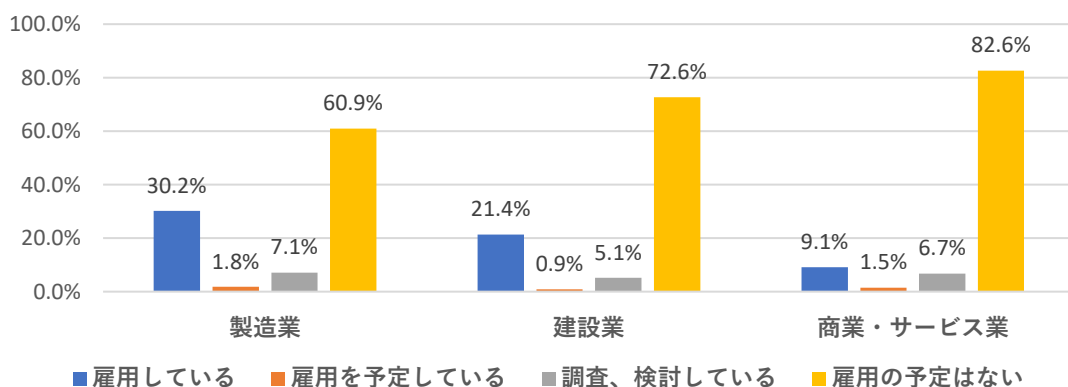


表5 外国人材の出身国（業種別）※複数回答

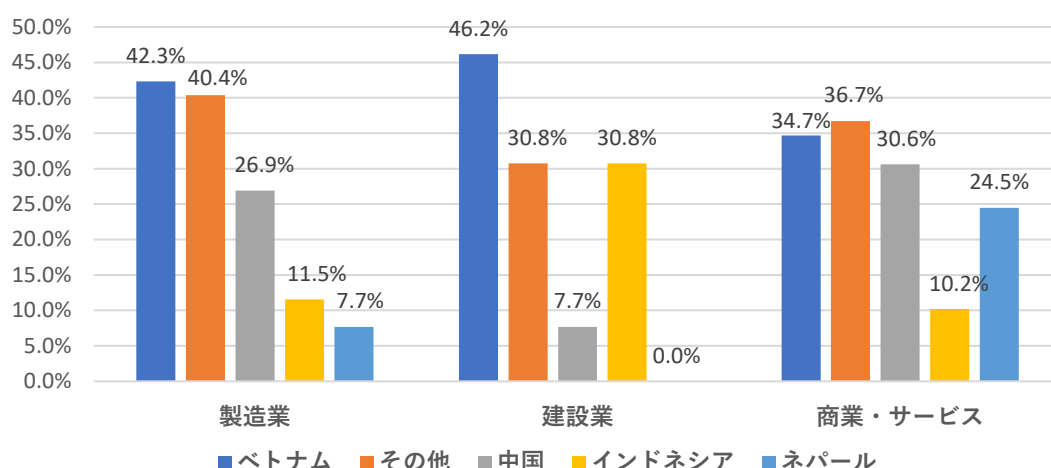
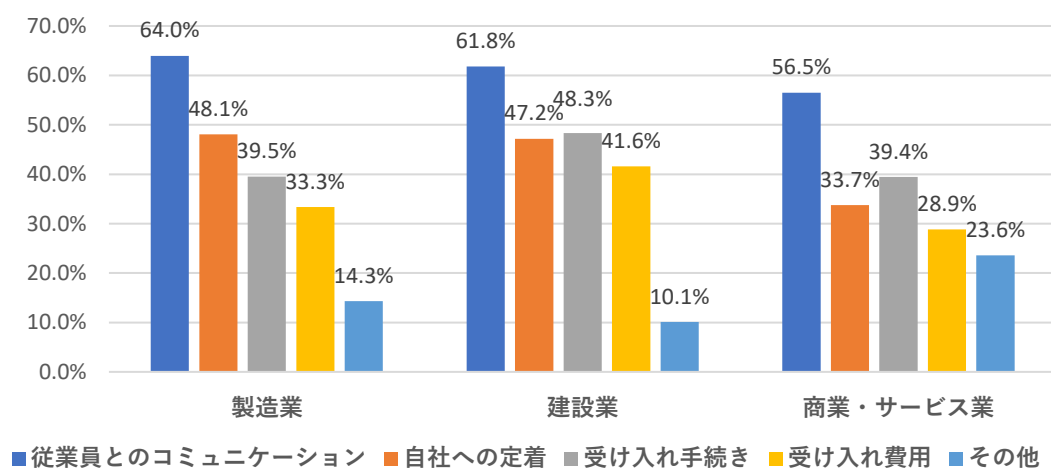


表6 外国人材雇用の課題（業種別）※複数回答



【調査要領】

調査時期：令和6年8月 調査対象：県内中小企業2,000社 回答数：1,013社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先

(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)

(Kanagawa Industrial Promotion Center)

総務部企画広報課 徳田

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail kikaku@kipc.or.jp

令和6年7-9月期中小企業景気動向調査結果

1. 調査要領

- ・調査時期：令和6年8月
 - ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
 - ・回答数（率）：1,013社（50.7%） ※詳細は下記の通り
 - ・調査方法：調査対象へ郵送
 - ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析
- ※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	353	64.2%
建設業	250	122	48.8%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	538	44.8%
合計	2,000	1,013	50.7%

2. 調査結果

（1）総合

	令和5年	令和6年				令和7年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲25.3	▲26.3	▲26.0	▲25.7	▲24.6	▲25.1
売上DI	▲6.8	▲20.4	▲15.4	▲15.3	—	—
採算DI	▲25.5	▲30.2	▲29.8	▲24.4	—	—

総合の業況DIは、前期比0.3ポイント上昇の▲25.7となった。

経営状況では、売上DIは前期比0.1ポイント上昇の▲15.3、また、採算DIは同5.4ポイント上昇の▲24.4となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比1.1ポイント上昇の▲24.6、半年後は同0.6ポイント上昇の▲25.1を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和5年	令和6年				令和7年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲24.9	▲31.6	▲30.1	▲30.3	▲22.0	▲19.8
売上DI	▲8.5	▲24.6	▲22.3	▲15.3	—	—
採算DI	▲21.9	▲28.9	▲32.6	▲20.0	—	—

製造業の業況DIは、前期比0.2ポイント低下の▲30.3となった。

経営状況では、売上DIは、前期比7.0ポイント上昇の▲15.3、採算DIは同12.6ポイント上昇の▲20.0となった。

「コロナ禍以降、主要のお客様からの注文が増えていないが、一部のお客様は在庫も減り、少しずつ回復している。但し、まだ月々のムラはある。」「半導体分野で生成AIに関連する装置部品の受注、販売が好調。上期に続き下期分の引合いも出ているが、見込み通りに進むかは不明。生成AI以外の関連部品の動きはまだ鈍い。（メモリなど。）」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比8.3ポイント上昇の▲22.0、半年後は同10.5ポイント上昇の▲19.8を見込んでおり、「半導体関連が9月以降に動き出す見込み。期待しております。」

「主要顧客の減産により、2024年以降弊社受注額も減少を続けていましたが、7月に入ってから少しずつ受注量に増加傾向がみられるようになりました。年末にかけて徐々に忙しくなっていくものと予測しております。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和5年	令和6年				令和7年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
一般機械	▲18.5	▲29.5	▲37.2	▲21.6	▲8.0	▲9.3
電気機械	▲26.5	▲22.9	▲22.2	▲26.2	▲15.9	▲14.8
輸送用機械	▲18.2	▲30.0	▲26.3	▲33.3	▲31.5	▲29.6
その他	▲31.7	▲39.7	▲31.5	▲37.8	▲31.7	▲26.2

中分類で見ると、一般機械は前期比15.6ポイント上昇の▲21.6、電気機械は同4.0ポイント低下の▲26.2、輸送用機械は同7.0ポイント低下の▲33.3となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比13.6ポイント上昇の▲8.0、電気機械が同10.3ポイント上昇の▲15.9、輸送用機械は同1.8ポイント上昇の▲31.5、半年後は一般機械が同12.3ポイント上昇の▲9.3、電気機械が同11.4ポイント上昇の▲14.8、輸送用機械は同3.7ポイント上昇の▲29.6を見込んでいる。

<建設業>

	令和5年	令和6年				令和7年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲0.8	▲2.4	▲9.0	▲9.1	▲8.5	▲11.1
売上DI	3.3	▲6.4	▲17.7	▲10.7	—	—
採算DI	▲18.3	▲26.4	▲25.2	▲20.5	—	—

建設業の業況DIは、前期比0.1ポイント低下の▲9.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比7.0ポイント上昇の▲10.7、採算DIは同4.7ポイント上昇の▲20.5となった。

「材料、エネルギー費の製品価格への転嫁がますます成功した。」「小規模現場が好調ですが、職人の数が不足気味。単価は上昇基調。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.6ポイント上昇の▲8.5、半年後は同2.0ポイント低下の▲11.1を見込んでおり、「設備投資が堅調に推移しており、受注に繋がっている。工期の開始時期が遅れているが、今年度後半には開始予定。若手社員が不足しているので、雇用は継続していく。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	令和5年	令和6年				令和7年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
業況DI	▲31.0	▲28.4	▲27.5	▲26.4	▲30.0	▲31.6
売上DI	▲7.9	▲21.0	▲10.2	▲16.4	—	—
採算DI	▲29.4	▲32.0	▲29.1	▲28.2	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比1.1ポイント上昇の▲26.4となった。

経営状況では、売上DIは前期比6.2ポイント低下の▲16.4、採算DIは同0.9ポイント上昇の▲28.2となった。「この猛暑で客数は若干減少気味だが、前年割れはしていない状況。今後も毎年このようなサイクルになりそうな感は否めないか。」「円安による仕入高の高騰、可処分所得の減少によるレジャー産業の不況等により期待していた程売上が上がっていない。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比3.6ポイント低下の▲30.0、半年後は同5.2ポイント低下の▲31.6を見込んでいる。「パート・アルバイトの最低時給上昇によって、人件費率が上がってしまっている。時給が上がっても人材が増えるわけではなく、業務的にも数字的にも良い方向には進んでいないと思われる。今後、人件費の圧迫・社会保険料の圧迫で中小企業は苦しい状況が増える。」「大幅な最低賃金改定を秋に控え、下期の収益減は確実な状況。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和5年	令和6年				令和7年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
卸売業	▲32.0	▲34.3	▲23.2	▲31.3	▲33.0	▲38.9
小売業	▲43.0	▲41.4	▲42.5	▲36.4	▲39.5	▲39.6
飲食店	▲9.2	0.0	▲3.1	▲13.4	▲13.8	▲13.8
サービス業	▲21.2	▲16.4	▲18.5	▲11.9	▲19.5	▲21.1

業種別では、卸売業は前期比8.1ポイント低下の▲31.3、小売業は同6.1ポイント上昇の▲36.4、飲食店は同10.3ポイント低下の▲13.4、サービス業は同6.6ポイント上昇の▲11.9となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比1.7ポイント低下の▲33.0、小売業は同3.1ポイント低下の▲39.5、飲食店は同0.4ポイント低下の▲13.8、サービス業は同7.6ポイント低下の▲19.5、半年後では卸売業が同7.6ポイント低下の▲38.9、小売業は同3.2ポイント低下の▲39.6、飲食店は同0.4ポイント低下の▲13.8、サービス業は同9.2ポイント低下の▲21.1を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和5年	令和6年				令和7年
		10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
中規模	業況DI	▲20.0	▲21.5	▲17.8	▲19.3	▲18.1	▲19.0
	売上DI	4.5	▲12.1	▲7.2	▲5.1	—	—
	採算DI	▲18.5	▲25.6	▲24.3	▲18.6	—	—
小規模	業況DI	▲31.3	▲32.2	▲35.0	▲33.2	▲32.5	▲32.4
	売上DI	▲19.7	▲30.9	▲24.5	▲27.4	—	—
	採算DI	▲33.5	▲36.0	▲35.9	▲31.3	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比1.5ポイント低下の▲19.3、小規模企業は同1.8ポイント上昇の▲33.2となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比2.1ポイント上昇の▲5.1、採算DIが同5.7ポイント上昇の▲18.6、小規模企業は売上DIが同2.9ポイント低下の▲27.4、採算DIが同4.6ポイント上昇の▲31.3となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比1.2ポイント上昇の▲18.1、半年後が同0.3ポイント上昇の▲19.0、小規模企業は3か月後が同0.7ポイント上昇の▲32.5、半年後が同0.8ポイント上昇の▲32.4を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和5年	令和6年				令和7年
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期 見込	1-3月期 見込
横浜	▲27.7	▲29.6	▲29.1	▲25.9	▲26.3	▲27.1
川崎	▲25.2	▲20.6	▲27.1	▲35.1	▲27.3	▲26.2
横須賀	▲25.5	▲27.8	▲15.2	▲20.7	▲24.7	▲30.6
平塚	▲20.8	▲32.4	▲40.0	▲29.0	▲30.0	▲28.3
藤沢	▲33.0	▲31.4	▲22.6	▲17.8	▲20.2	▲16.5
相模原	▲31.6	▲26.9	▲29.4	▲30.3	▲25.3	▲27.4
厚木	▲23.1	▲23.8	▲24.8	▲17.6	▲19.8	▲19.0
足柄上・西湘	▲12.4	▲13.7	▲13.8	▲25.7	▲20.7	▲23.4

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比3.2ポイント上昇の▲25.9）、川崎地区（同8.0ポイント低下の▲35.1）、横須賀地区（同5.5ポイント低下の▲20.7）、平塚地区（同11.0ポイント上昇の▲29.0）、藤沢地区（同4.8ポイント上昇の▲17.8）、相模原地区（同0.9ポイント低下の▲30.3）、厚木地区（同7.2ポイント上昇の▲17.6）、足柄上・西湘地区（同11.9ポイント低下の▲25.7）となり4地区で上昇し、4地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比0.4ポイント低下の▲26.3）、川崎地区（同7.8ポイント上昇の▲27.3）、横須賀地区（同4.0ポイント低下の▲24.7）、平塚地区（同1.0ポイント低下の▲30.0）、藤沢地区（同2.4ポイント低下の▲20.2）、相模原地区（同5.0ポイント上昇の▲25.3）、厚木地区（同2.2ポイント低下の▲19.8）、足柄上・西湘地区（同5.0ポイント上昇の▲20.7）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比1.2ポイント低下の▲27.1）、川崎地区（同8.9ポイント上昇の▲26.2）、横須賀地区（同9.9ポイント低下の▲30.6）、平塚地区（同0.7ポイント上昇の▲28.3）、藤沢地区（同1.3ポイント上昇の▲16.5）、相模原地区（同2.9ポイント上昇の▲27.4）、厚木地区（同1.4ポイント低下の▲19.0）、足柄上・西湘地区（同2.3ポイント上昇の▲23.4）となり5地区で上昇し、3地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 徳田

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和6年7月～9月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		353	122	112	225	67	134	538	1,013
業況判断	現在の業況	▲30.3	▲9.1	▲31.3	▲36.4	▲13.4	▲11.9	▲26.4	▲25.7
	3ヶ月後の業況	▲22.0	▲8.5	▲33.0	▲39.5	▲13.8	▲19.5	▲30.0	▲24.6
	半年後の業況	▲19.8	▲11.1	▲38.9	▲39.6	▲13.8	▲21.1	▲31.6	▲25.1
経営状況	売上	▲15.3	▲10.7	▲13.4	▲29.3	▲1.5	▲4.5	▲16.4	▲15.3
	採算	▲20.0	▲20.5	▲25.0	▲34.8	▲31.8	▲17.9	▲28.2	▲24.4
	引き合い／客数	▲11.8	▲4.1	▲18.8	▲38.4	▲16.4	0.0	▲22.0	▲16.3
	単価	15.0	18.9	1.8	▲16.6	7.6	6.0	▲4.1	5.3
	仕入価格	▲69.3	▲63.1	▲77.7	▲75.7	▲90.9	▲59.5	▲74.0	▲71.1
	資金繰り	▲24.6	▲13.9	▲22.3	▲26.1	▲30.8	▲16.7	▲23.5	▲22.8
	残業	▲15.8	▲15.6	▲15.2	▲13.2	▲12.3	▲16.5	▲14.4	▲15.0
	設備稼働	▲11.8	▲3.4	—	—	—	—	—	▲9.7
前期経営実績	売上水準	▲26.7	▲0.8	▲23.2	▲32.1	▲4.5	▲7.5	▲20.7	▲20.4
	利益水準	▲7.1	13.1	0.9	▲17.0	1.5	0.0	▲6.7	▲4.5
	在庫	10.7	▲2.6	16.5	0.9	▲1.5	▲6.7	2.1	4.6
	投資	▲7.2	▲3.4	▲17.4	▲18.6	▲9.0	▲10.7	▲15.2	▲11.0
	雇用状況	▲18.1	▲43.0	▲20.9	▲23.7	▲45.5	▲34.4	▲28.5	▲26.6

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (令和6年4月～6月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		356	135	112	221	67	135	535	1,026
業況判断	現在の業況	▲30.1	▲9.0	▲23.2	▲42.5	▲3.1	▲18.5	▲27.5	▲26.0
	3ヶ月後の業況	▲30.7	▲16.2	▲32.4	▲44.3	▲3.1	▲20.0	▲30.3	▲28.6
	半年後の業況	▲21.4	▲22.7	▲37.4	▲46.6	▲4.6	▲20.9	▲32.7	▲27.4
経営状況	売上	▲22.3	▲17.7	▲6.3	▲24.1	22.7	▲7.4	▲10.2	▲15.4
	採算	▲32.6	▲25.2	▲27.0	▲40.7	▲16.4	▲18.5	▲29.1	▲29.8
	引き合い／客数	▲18.4	▲5.3	▲17.3	▲38.8	9.0	▲11.1	▲21.1	▲18.1
	単価	4.9	15.4	9.1	▲20.9	11.9	6.8	▲3.4	1.9
	仕入価格	▲66.6	▲71.8	▲76.6	▲77.1	▲82.1	▲68.7	▲75.5	▲71.9
	資金繰り	▲26.6	▲13.0	▲18.0	▲29.3	▲23.9	▲22.2	▲24.4	▲23.7
	残業	▲21.4	▲26.2	▲18.9	▲12.8	▲11.9	▲10.5	▲13.4	▲17.9
	設備稼働	▲20.3	▲11.0	—	—	—	—	—	▲17.9
前期経営実績	売上水準	▲24.6	5.3	▲18.0	▲35.2	▲4.5	▲12.7	▲22.0	▲19.3
	利益水準	▲5.2	17.6	6.3	▲20.9	0.0	5.3	▲5.9	▲2.6
	在庫	9.9	▲1.6	13.1	4.2	1.5	▲5.7	3.3	5.0
	投資	▲8.6	▲0.8	▲12.8	▲20.3	▲1.5	▲8.0	▲13.3	▲10.1
	雇用状況	▲20.1	▲50.0	▲18.2	▲19.2	▲36.4	▲37.9	▲26.0	▲27.0

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		185	168	61	61	303	235	549	464
業況判断	現在の業況	▲28.1	▲32.7	0.0	▲18.0	▲17.8	▲37.4	▲19.3	▲33.2
	3ヶ月後の業況	▲18.0	▲26.4	0.0	▲17.2	▲21.7	▲40.7	▲18.1	▲32.5
	半年後の業況	▲16.4	▲23.8	▲6.7	▲15.8	▲23.2	▲42.6	▲19.0	▲32.4
経営状況	売上	▲6.5	▲25.1	▲3.3	▲18.0	▲4.6	▲31.5	▲5.1	▲27.4
	採算	▲14.6	▲26.1	▲13.1	▲27.9	▲22.2	▲35.9	▲18.6	▲31.3
	引き合い／客数	▲6.5	▲17.8	3.3	▲11.5	▲12.6	▲34.2	▲8.8	▲25.3
	単価	21.2	8.0	23.0	14.8	0.3	▲10.0	9.9	▲0.2
	仕入価格	▲65.9	▲73.2	▲55.7	▲70.5	▲72.5	▲76.0	▲68.4	▲74.2
	資金繰り	▲17.8	▲32.3	▲6.6	▲21.3	▲20.6	▲27.4	▲18.1	▲28.4
	残業	▲11.9	▲20.2	▲24.6	▲6.6	▲12.8	▲16.5	▲13.8	▲16.5
	設備稼働	▲8.7	▲15.2	▲3.3	▲3.4	—	—	▲7.4	▲12.2
前期経営実績	売上水準	▲18.9	▲35.3	4.9	▲6.6	▲11.9	▲32.1	▲12.4	▲29.9
	利益水準	1.1	▲16.4	29.5	▲3.3	4.7	▲21.4	6.2	▲17.2
	在庫	16.3	4.3	▲1.7	▲3.6	2.0	2.2	6.5	2.3
	投資	▲2.7	▲12.2	▲3.3	▲3.6	▲13.7	▲17.1	▲8.8	▲13.6
	雇用状況	▲21.2	▲14.5	▲49.2	▲36.7	▲37.0	▲17.3	▲33.0	▲18.8

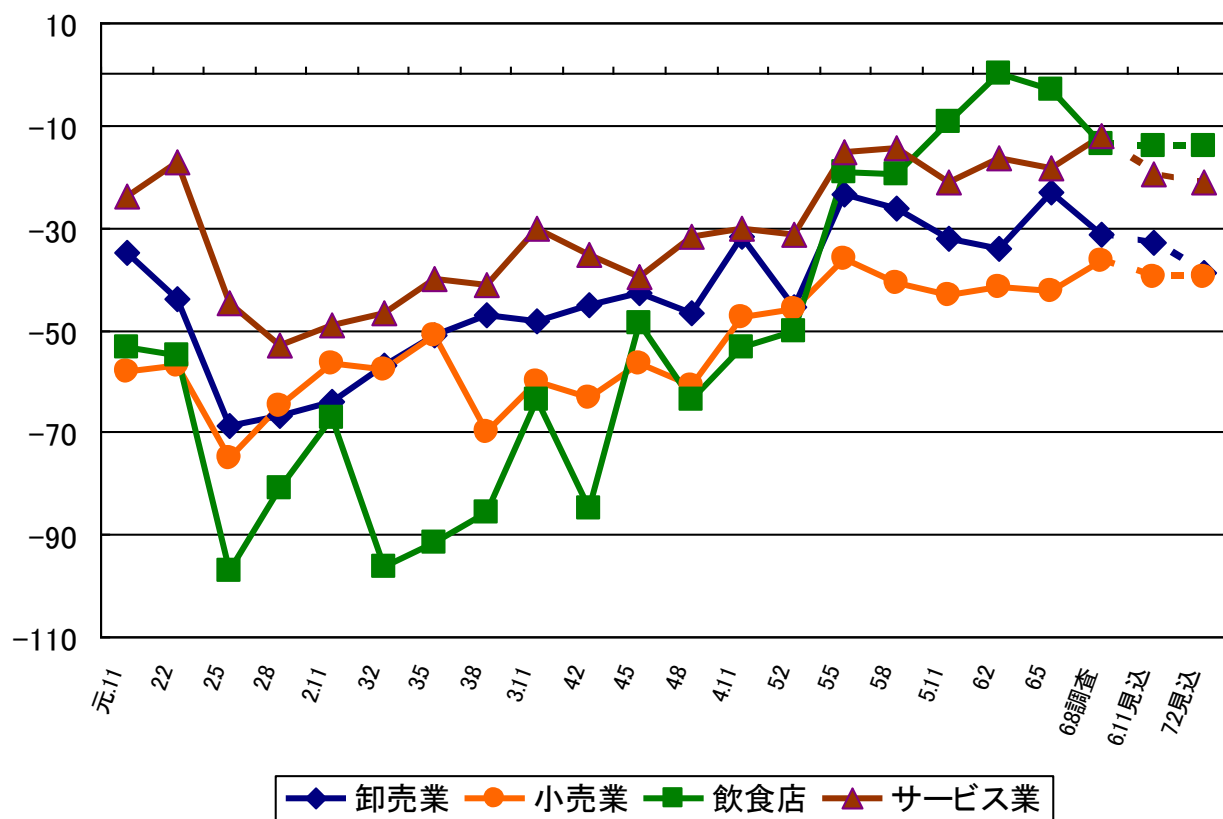
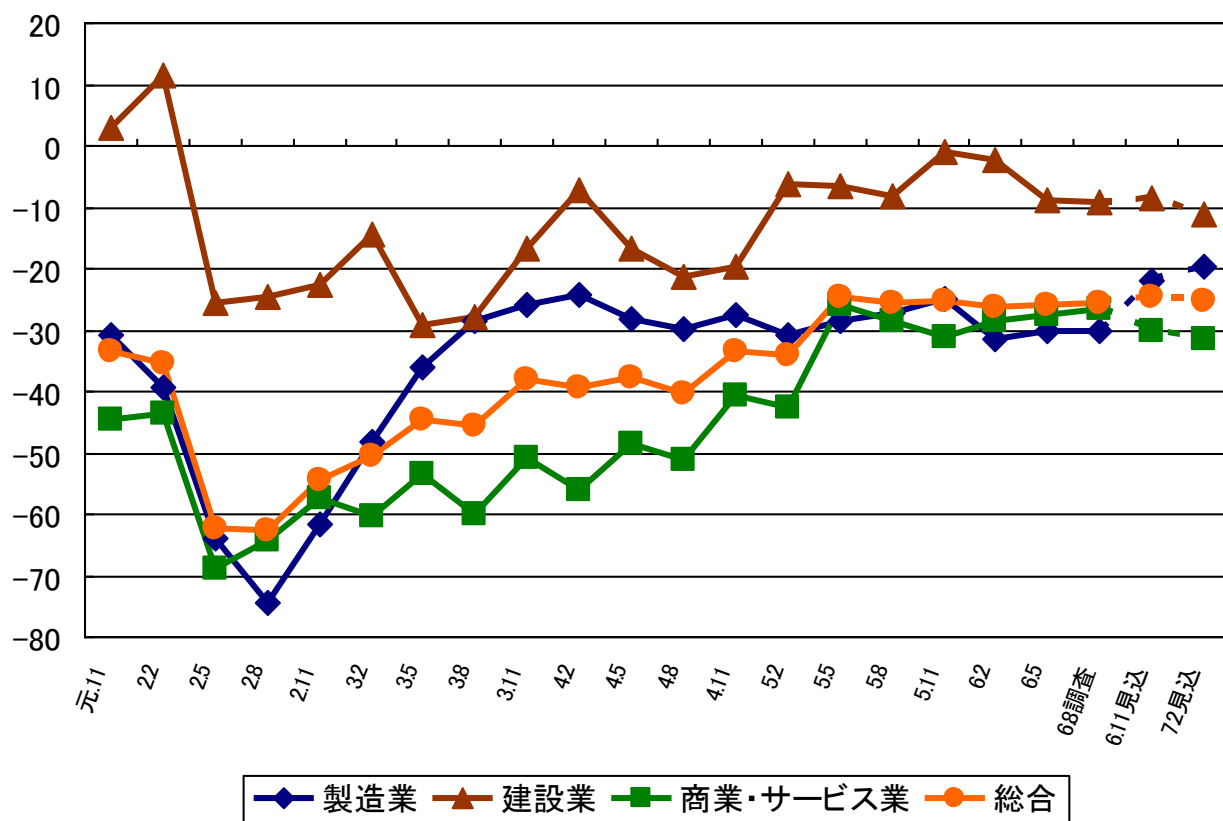
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		270	134	87	100	101	99	108	114	1,013
業況判断	現在の業況	▲25.9	▲35.1	▲20.7	▲29.0	▲17.8	▲30.3	▲17.6	▲25.7	▲25.7
	3ヶ月後の業況	▲26.3	▲27.3	▲24.7	▲30.0	▲20.2	▲25.3	▲19.8	▲20.7	▲24.6
	半年後の業況	▲27.1	▲26.2	▲30.6	▲28.3	▲16.5	▲27.4	▲19.0	▲23.4	▲25.1
経営状況	売上	▲15.6	▲26.1	▲16.1	▲14.0	▲7.9	▲13.1	▲14.8	▲11.4	▲15.3
	採算	▲22.8	▲32.8	▲16.1	▲27.0	▲21.8	▲28.6	▲20.4	▲24.8	▲24.4
	引き合い／客数	▲15.0	▲21.6	▲21.8	▲23.0	▲10.9	▲16.7	▲13.0	▲10.6	▲16.3
	単価	1.5	▲0.8	11.5	7.1	12.1	5.3	4.6	9.7	5.3
	仕入価格	▲68.4	▲69.9	▲70.9	▲73.7	▲75.0	▲72.4	▲70.1	▲72.6	▲71.1
	資金繰り	▲23.4	▲17.9	▲18.8	▲27.3	▲20.0	▲22.4	▲21.3	▲30.1	▲22.8
	残業	▲13.6	▲19.5	▲17.4	▲20.4	▲8.0	▲11.3	▲17.0	▲14.0	▲15.0
	設備稼働	▲5.7	▲14.1	0.0	▲13.3	▲8.9	▲13.2	▲6.9	▲19.0	▲9.7
前期経営実績	売上水準	▲20.4	▲28.4	▲20.7	▲23.0	▲12.9	▲21.2	▲23.1	▲11.6	▲20.4
	利益水準	▲4.9	0.7	0.0	▲5.0	▲2.0	▲7.1	▲12.0	▲5.4	▲4.5
	在庫	2.0	4.6	3.5	▲1.0	5.1	11.6	10.3	4.5	4.6
	投資	▲12.9	▲3.0	▲4.7	▲10.4	▲9.9	▲16.7	▲14.2	▲14.2	▲11.0
	雇用状況	▲31.4	▲20.9	▲41.2	▲28.3	▲35.0	▲25.8	▲20.0	▲8.9	▲26.6

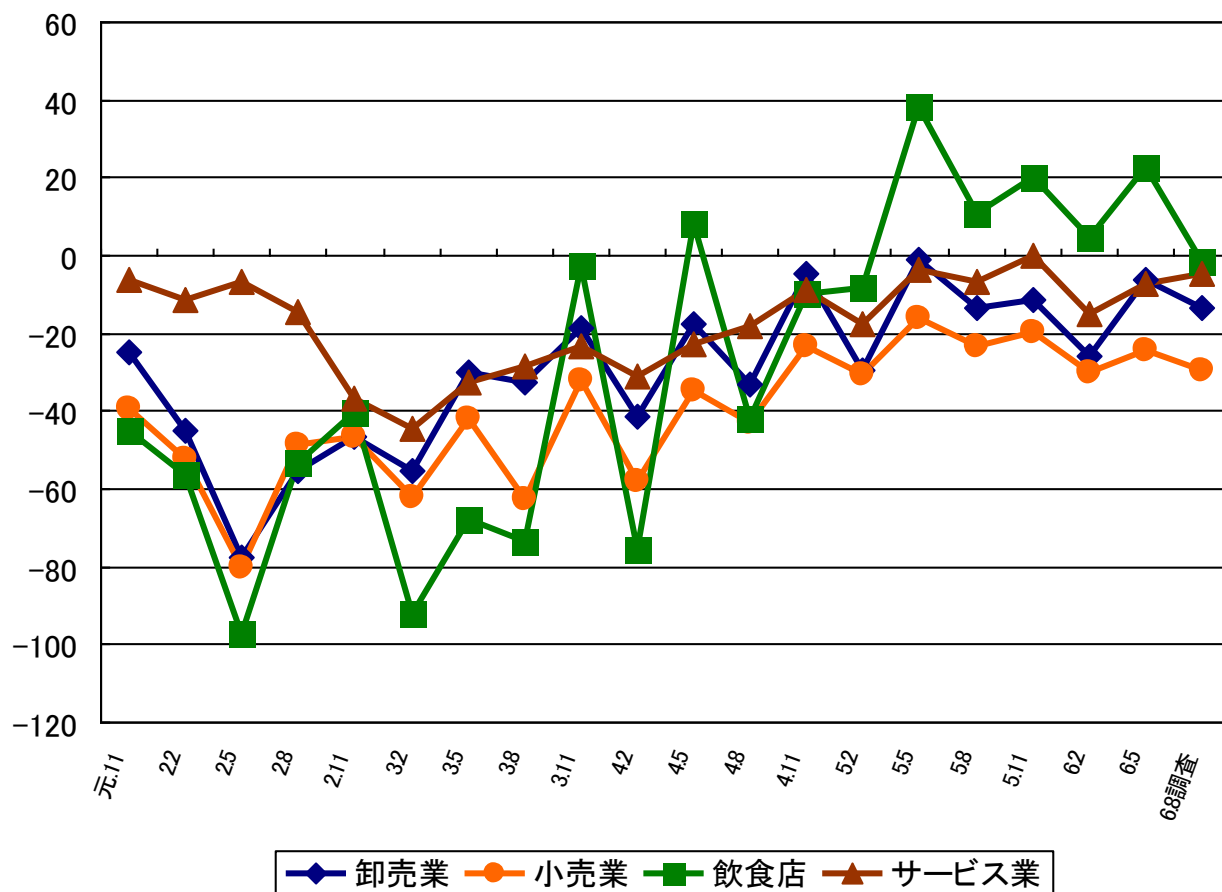
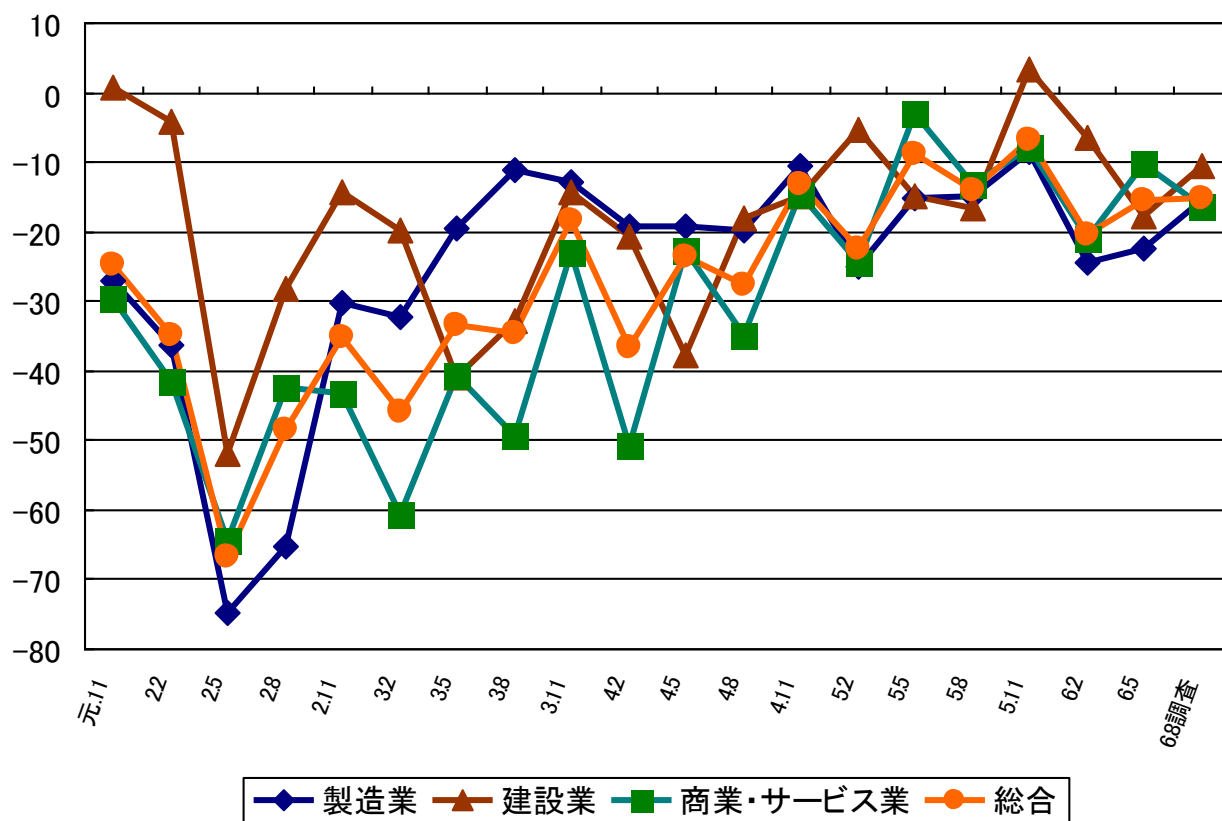
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		88	84	54	127	353
業況判断	現在の業況	▲21.6	▲26.2	▲33.3	▲37.8	▲30.3
	3ヶ月後の業況	▲8.0	▲15.9	▲31.5	▲31.7	▲22.0
	半年後の業況	▲9.3	▲14.8	▲29.6	▲26.2	▲19.8
経営状況	売上	▲5.7	▲17.9	▲11.1	▲22.0	▲15.3
	採算	▲10.3	▲13.1	▲29.6	▲27.2	▲20.0
	引き合い／客数	▲2.3	▲3.6	▲18.5	▲21.1	▲11.8
	単価	16.5	22.6	16.7	8.1	15.0
	仕入価格	▲64.4	▲70.2	▲58.5	▲76.8	▲69.3
	資金繰り	▲24.4	▲14.3	▲20.4	▲33.6	▲24.6
	残業	▲9.3	▲16.9	▲16.7	▲19.2	▲15.8
	設備稼働	▲1.2	▲4.8	▲11.1	▲24.2	▲11.8
前期経営実績	売上水準	▲24.1	▲16.7	▲24.1	▲36.2	▲26.7
	利益水準	▲12.6	1.2	▲3.7	▲10.4	▲7.1
	在庫	8.0	16.7	11.8	8.1	10.7
	投資	▲4.6	▲8.3	▲5.6	▲8.9	▲7.2
	雇用状況	▲26.7	▲17.9	▲13.0	▲14.4	▲18.1

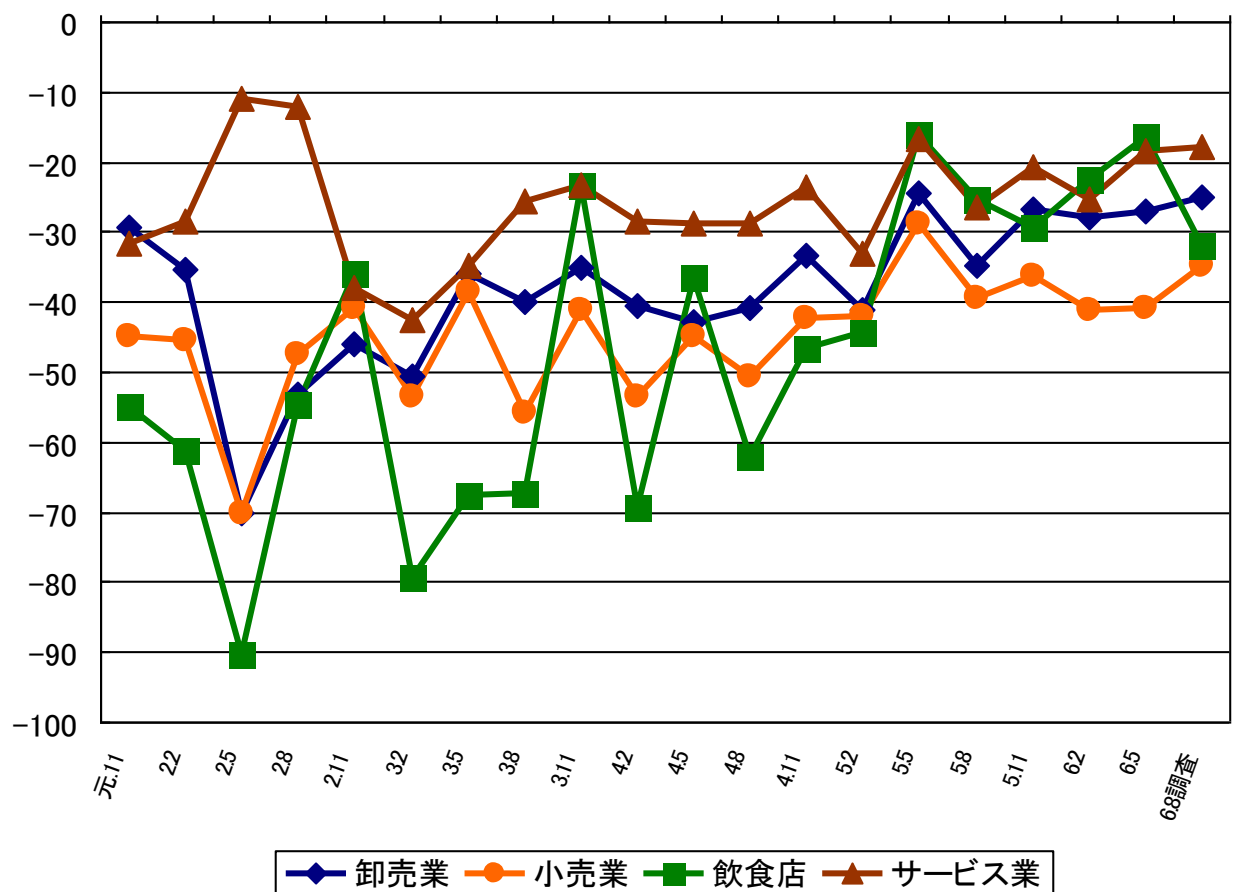
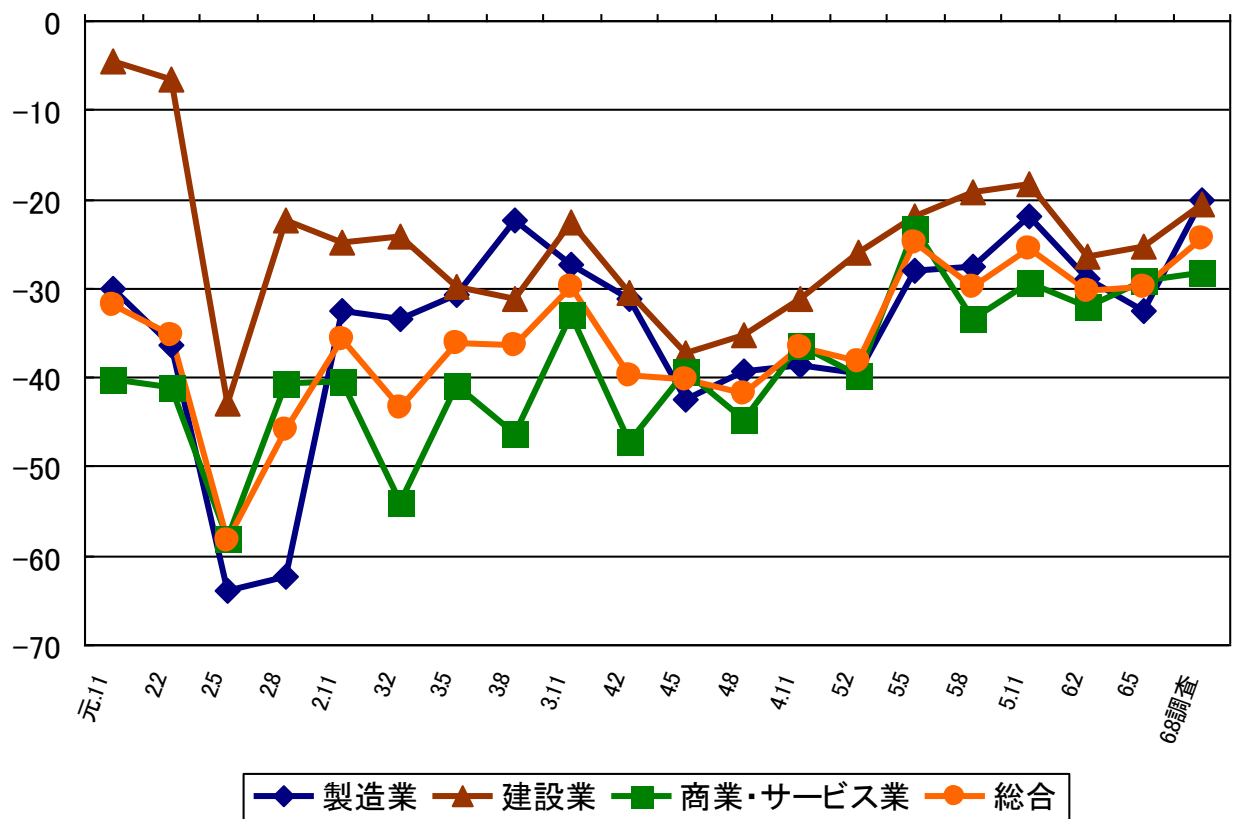
業況DIの推移



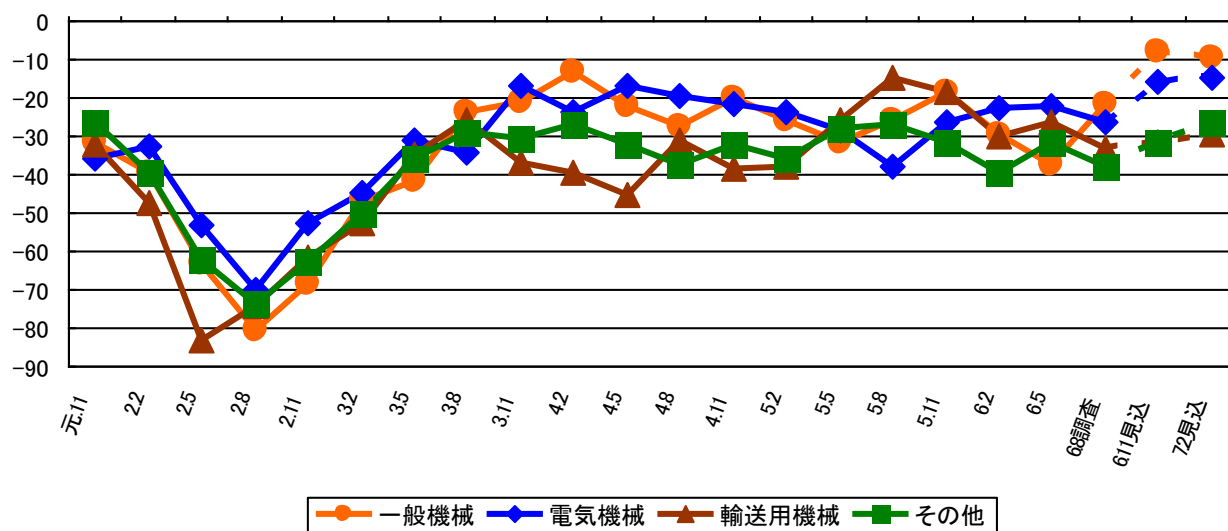
売上DIの推移



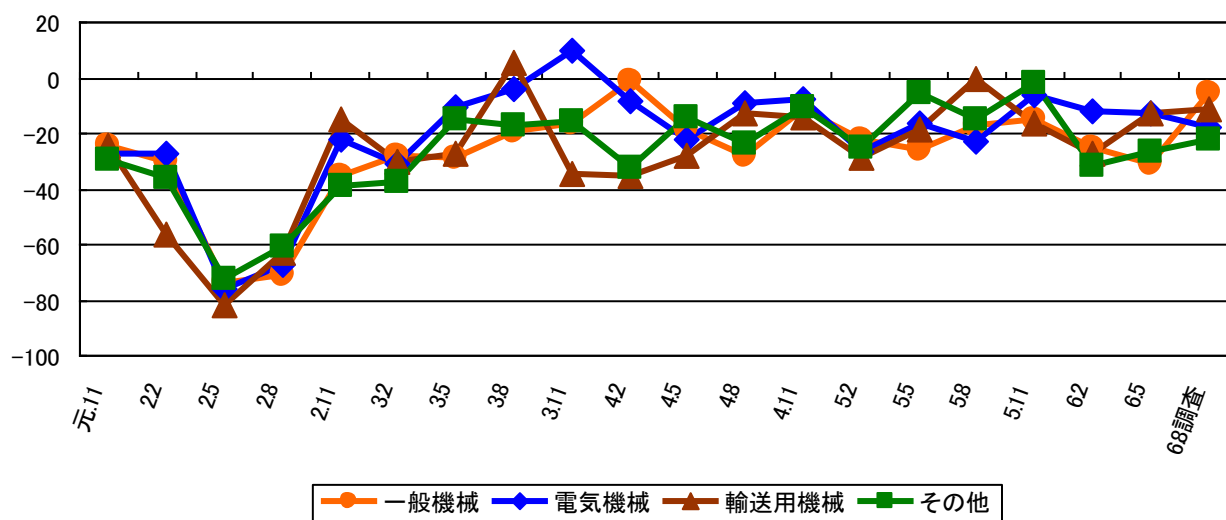
採算DIの推移



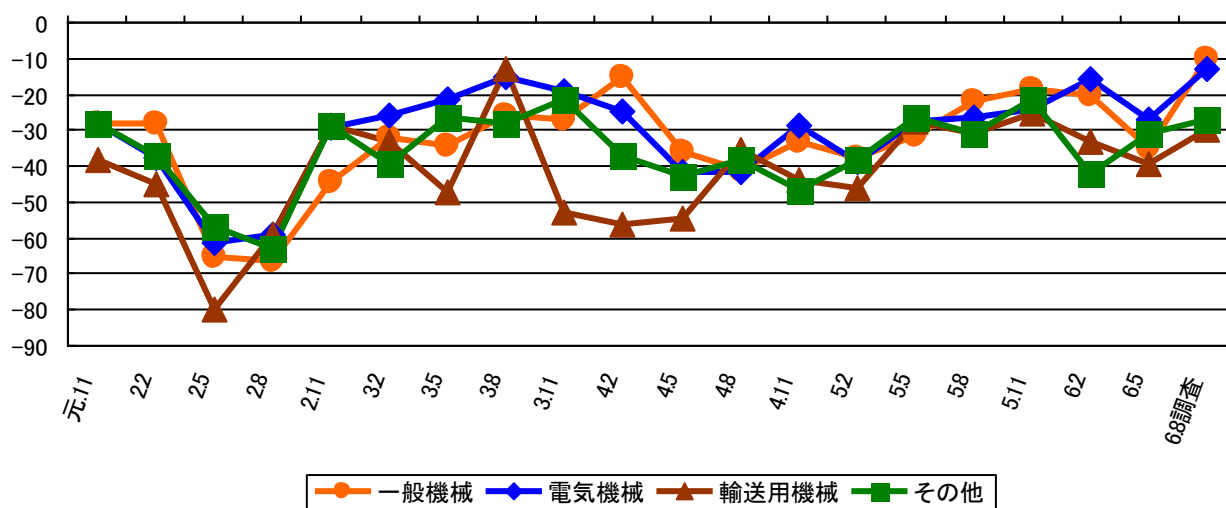
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「コロナ禍以降、主要のお客様からの注文が増えていないが、一部のお客様は在庫も減り、少しずつ回復している。但し、まだ月々のムラはある。」
「ベトナム人技能実習生が頑張ってくれて仕事に従事してくれているおかげで、人手不足に歯止めが利いている。」
「半導体分野で生成AIに関連する装置部品の受注、販売が好調。上期に続き下期分の引合いも出ているが、見込み通りに進むかは不明。生成AI以外の関連部品の動きはまだ鈍い。(メモリなど。)」
「コロナ禍以降、徐々に回復傾向にあると思われていたが、日々高騰する人件費や材料費等を賄いきれるだけの価格転嫁は容易ではなく、常に閉塞感が感じられる。」
「コロナ明けすぐに良くなるかと思っておりましたが、1年以上かかって上向いてきました。時差があるようです。そして、今後は徐々に落ち着き、ゆっくり悪くなるのではと思います。」
「現在は好調となっているが、株価の下落などで来期がどのようになるか不安。」
「半導体関連が9月以降に動き出す見込み。期待しております。」
「自動車向けが減っているのが心配。」
「今期は目標通り利益を確保できそう。来期はまだ見通せず、現状維持できれば良い。」
「秋口から年初に起工した製品が動き出す予定。少しは売上に貢献される。」
「自動車、半導体、全般に良くないようです。秋以降の回復に期待しています。」
「今期7月末までの業績は売上伸びて、利益も出ましたが、電気業界の秋以降の状況が見えませんので、不安です。」
「仕入単価上昇を販売価格に転嫁できたことで、業績が回復傾向。」
「在庫管理、人材育成に取り組み、その結果が徐々に数字になってきている。今後の課題は、仕入の高騰に伴う売上価格への落とし込みを考えている。」
「主要顧客の減産により、2024年以降弊社受注額も減少を続けていましたが、7月に入ってから少しずつ受注量に増加傾向がみられるようになりました。年末にかけて徐々に忙しくなっていくものと予測しております。」
「年内の受注量は増加傾向だが、その先は見通せない。」

<建設業>

「材料、エネルギー費の製品価格への転嫁がまずまず成功した。」
「非常に仕事減りつつあります。」
「人材不足。特に工事保員がまったく足りない。」
「小規模現場が好調ですが、職人の数が不足気味。単価は上昇基調。」
「昨年よりは、だいぶ受注含め上向きになっている。」
「猛暑による作業効率の低下。」
「設備投資が堅調に推移しており、受注に繋がっている。工期の開始時期が遅れているが、今年度後半には開始予定。若手社員が不足しているので、雇用は継続していく。」
「引き合い案件は潤沢に開示されているものの、当社技術者(施工監理)不足の為、受注活動に踏み切れていない。」
「従業員の高齢化が進んでいるが、若い人材が育っていない。」
「公共工事の入札次第。民間は利益率が悪くなっている。暑すぎる夏で、労働環境が悪すぎて、対応に苦慮している。暑さ、熱中症対策に経費もかかる。」

<卸売業>

「ひとえに為替に尽きます。何にせよ安定を望みます。」
「円安による仕入高の高騰、可処分所得の減少によるレジャー産業の不況等により期待していた程売上が上がっていない。」
「仕入、販売価格の上昇。外食好調。」
「コロナ明けにもかかわらず、売上は回復してこない。仕入については、円安、米国の物価高が続いている為、苦境も続いている。この状況では、給与が上がることも期待できず、中小ならではの八方塞がりを感じている。」
「半導体市場でサプライチェーンの在庫調整が長引いており、業績に大きな影響を及ぼしている状況。調整局面の回復期が今年度の後半と見据える見解が報道されているが、年明けか年度末かは不明である。」
「一般消費が減少しているように感じます。今後も不調が続くと感じます。」
「全般不景気です。お客様、仕入先、良い話は聞けません。日本全体が上向きに活性化してもらいたいです。経済に力を入れてほしいです。」
「ゼロゼロ債の返済に苦労している。」
「仕入価格が上がり、採算が悪くなっている。今後もこのような状況が続きそうだ。」
「木材、合板価格が高値維持傾向。市場が悪く、一時的に下がるかも。」
「円安で輸入コストが大幅に高くなった。運転資金不足で新商品開発ができない。」
「原材料の高騰と、賃金の増加で、利益率が悪い。」

<小売業>

「インターネット（量販店）での注文へと移行した。」
「天気（異常に暑い夏、その長期化）。物価高の継続による得意先の減少。また、問屋が閉鎖し仕入れ先が先細り。今後も気に入った商品の入荷が不安。」
「WEBでの販売は客を選ばず、AI対応にすれば、まだ数字は上がると思います。ですが、こちらは心がある人間なので、お客様は選ばせていただいていることが、赤字の要因かと思います。専門店に移行したいが、末々昔からのお客様、高齢のお客様の対応は無くせず、赤字要因となっている。」
「インバウンドで業績が良くなっている。」
「路面店では、この夏の猛暑に耐えられない。客足は自然と百貨店や地下街になるのかもしれない。資材、原材料の高騰が続く、製品単価が更に上がっている。その為、買い控えが出ている。」
「天候や外的要因に大きく左右されるので、在庫を少なくリスク分散にしています。売り逃した方がいいか、在庫を残した方がいいか悩んで、結果、在庫を少なく売り切る方でやっています。」
「設備の投資案件の受注が増え、売上は増大したが、期待できる利益は確保できていない。今後、物価高による受注減と人件費の高騰が経営に影響すると思われる。」
「店舗の客足が年々減っており、秋頃から販売品目の大幅な見直しを行い魅力ある店舗にしていきたいと考えている。」
「この猛暑で客数は若干減少気味だが、前年割れはしていない状況。今後も毎年このようなサイクルになりそうな感はあるが。」
「売上減少につき、売場及び加工場を減らしていく予定。」
「仕入れ価格に合わせた販売価格転嫁が必要。」
「原材料、消耗品、人件費など的高騰で利益を出すのが非常に難しい。コロナが発生した2020年よりも今の方が厳しい。取引先でも、景気の悪いところが出始めた。入金滞納等。」

<飲食店>

「人手不足。特に調理部門が深刻です。」
「物が一つ一つ高くなっている。油、米、豚肉は3回値上がった。利益がどんどん減っていく。」
「インスタグラムを見て来る若者が増えている。これらを利用して客数を伸ばしたい。」
「103万円の壁で、人手不足に陥っている。壁を早く打開してほしい。パート不足に拍車がかかっている。」
「人材不足につき、縮小の見通し。」
「仕入価格の高騰により、収益が上がらない。また、売上の7割以上がカードのため、資金繰りが大変。」
「外国のお客様は増えていますが、値段を上げていないのと材料費の高騰で利益は増えていません。9月から値段を上げる予定です。」
「コロナが終わり、お客様が戻っている実感がある。」
「人手不足から逃れられない。」
「リピーターの顧客に支えられている。」
「パートアルバイトの最低時給上昇によって、人件費率が上がってしまっている。時給が上がっても人材が増えるわけではなく、業務的にも数字的にも良い方向には進んでいないと思われる。今後、人件費の圧迫・社会保険料の圧迫で中小企業は苦しい状況が増える。」

<サービス業>

「暑すぎて客足が夕方以降になります。イベントがある時は混雑します。」
「最大受注先の値上げが、申請してから1年半の間、認められていない。」
「大幅な最低賃金改定を秋に控え、下期の収益減は確実な状況。」
「宿泊施設、事業所等の需要は、コロナ前に戻った感があります。しかし材料費の高騰で、値上げだけではカバーしきれないのが現状。」
「人手不足。人件費の上昇に加え、今年10月からの最低賃金の大幅上昇等、人手、人件費に係る費用が大きな問題です。また、最近ではパート従業員の高齢化がすさまじい。」
「コロナ感染が多くみられ、働き手に不足感あり。」
「燃料の値上げや最低賃金の上昇等、経費の上昇が続く、その価格転嫁が難しい。」
「人件費が増えている為、利益が減っている。定年の方がこれからたくさん控えられている為、しばらくは仕方がない。」
「鉄・非鉄金属くずの相場が良かったため、業績が好調だった。今後は相場が落ちるため、採算が悪くなる。」
「機械のメンテナンスが増えてる。」
「昨年はコロナ明けバブルで、レジャーへの消費が大きかったため、当社の業績もかなり良かったが、今年に入り、物価高、円安等の影響もあり、節約傾向が強まり、昨年のような売上には至っていないが、昨年は異常だったと考えられる。」
「新規開拓が思うようにいかない。」
「デジタル化への出費は嵩んでいるが、必要な投資。」